

指導死の特徴

2012.11.17 武田さち子 作成

●隠される自殺原因 : 記録に残らない ⇒ 知らない(教訓化されない) ⇒ 繰り返されている

- ・学校・教育委員会・教師が責任追及を恐れて隠す (密室、物的証拠がないことが多い、証人も学校教師・生徒 = 隠すことが容易)
- ・自殺に対する偏見があり、遺族が言えない
- ・亡くなった子どもへの批判、自分たちへの批判を恐れて、遺族が言えない
- ・生徒指導という大義名分があるため、違法性の立証が難しく民事裁判に問えない、勝てない

だからこそ、国や自治体が積極的に情報収集しなければ、再発防止できない!

●41事例にみる指導死の主な特徴 (未遂4件を含む)

・指導死学年内訳 (1963年～2011年)

件

	小4	小5	小6	小	中1	中2	中3	中	高1	高2	高3	高	計
男	0	2	5	7	2	5	6	13	4	5	3	12	32 (78%)
女	1	0	0	1	1	2	2	5	2	1	0	3	9 (22%)
計	1	2	5	8(20%)	3	7	8	18(44%)	6	6	3	15(37%)	41(100%)

(児童生徒の自殺全体では2011年度、文科省 小2%、中20%、高79%、警察庁では小2%、中50%、高66%)

・49% (20件) が指導直後、76%(31件) が2日以内に自殺

- ・当日20件 (内声かけ直後1件、指導中1件、発覚直後1件) ・ 電話直後2件 ・ 翌日7件 (内3件は登校前) ・ 迎え直後2件
- ・小学生5件 (8件中)が直後に自殺。小学生はより衝動的に自殺に走りやすい。

●自殺の背景 (遺書や周囲の証言等から武田が推測)

数字は該当する事例件数

自殺の背景心情	件数	影響を及ぼすもの
a. 所属感の減弱 ※1	31	他の児童生徒前での叱責12、違反行為発覚と疑い11、いじめ・友人の悩みを持つ生徒への指導7、部活での叱責5、密告制度3、連帯責任、(無期)停学
b. 負担感の知覚 ※1	21	自尊心の低下13、保護者の呼び出し8、(無期)停学3、密告3、連帯責任、部活での失敗
c. 自殺潜在能力 ※1	3	暴力的指導3、過呼吸1
d. 強い怒り	19	反抗的態度理由のしっ責9、暴言9、暴力8、暴力の知覚5、不公平感6、決めつけ・疑い6
e. 激しい後悔	12	不正行為、いじめ加害、失敗、忘れ、
f. 肉体的精神的疲労	8	長時間の取り調べ、テスト期間、部活
g. 強い恐怖	5	強い恐怖は「自分への暴力」1だけでなく「他人への暴力」4でも生じる

※1.自殺の対人関係理論 (Thomas E. Joiner Jr & M. David Rudd 2005 北村俊則監訳 2011.6.25 日本評論社)
 「所属感の減弱」「負担感の知覚」「身に着いた自殺潜在能力」の3つの組み合わせが、重篤な自殺企図あるいは自殺死にとって最も致命的であると予測。とくに、「負担感の知覚」と「所属感の減弱」の併存が自殺願望の最も強烈なかたちとして現れると想定。

●こんな指導が子どもを追いつめる

厳罰化(停学・退学)やゼロトレランス(例外なし・寛容度ゼロ)は!?

- ・暴力的 ・権威的 ・脅迫的 ・感情的 ・人格否定 ・理不尽 ・不公平 ・価値観の押し付け
 - ・長時間 ・複数の教師による指導 ・将来への絶望感 ・根拠が明確でない
 - ・子どもが学校に行く理由 (1位「友だち」・2位「部活」・3位「進学・進路」 ※2) を奪う
- (※2 X市3校の中学2年生生徒11学級 2012年4月20日-5月2日 / 日本生徒指導学会 安藤恵発表資料より)

●指導死を防ぐために

- ・「指導死」があると知る ・国による積極的な子どもの自殺・事件・事故の正しい情報収集・分析・対策・啓蒙
- ・暴力を振るわない ・悪い行為を叱っても人格を否定しない ・自尊心を奪わない ・見せしめ的な罰を与えない
- ・感情的にならない ・共感的に接する (ただし、気持ちは受け止めて、だめなことはだめときっぱり否定する)
- ・児童生徒の性格や家庭環境に配慮する ・価値観の押し付け、思い込みを慎む ・多人数長時間の聴取をしない
- ・未来に対して絶望感を持たせない(希望を残す・伝える) ・気にかけていることを伝える(所属感を補う)
- ・指導中、指導後の児童生徒の様子に気をつける ・保護者と情報の共有

指導死 考察データ

2012.11.17 武田さち子 作成

1. 児童生徒の自殺原因にみる「教師のしっ責」「教職員との関係での悩み」

「教師のしっ責による自殺」 1978(昭和53)年～1987(昭和62)年 警察庁調べ

年度	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987
男	3	4	3	1	2	3	2	5	2	1
女	1	1	0	0	0	3	0	1	0	0
計	4	5	3	1	2	6	2	6	2	1

※1988年から項目になくなる

「教職員との関係での悩み」(「教師との人間関係」)による自殺 文部科学省と警察庁

年度		1994	1995	1996-2006	2007	2008	2009	2010	2011
文科省	小学校	1	0	0	0	0	0	0	0
	中学校	0	1	0	0	1	0	1	0
	高校	0	0	0	0	1	1	1	0
	計	1	1	0	0	2	1	2	0
警察庁	小学校	統計なし			0	0	0	0	0
	中学校 (男女)	統計なし			2 (2・0)	2 (0・2)	1 (1・0)	2 (0・2)	1 (1・0)
	高校 (男女)	統計なし			3 (3・0)	1 (1・0)	2 (2・0)	3 (0・3)	4 (2・2)
	計 (男女)	統計なし			5 (5・0)	3 (1・2)	3 (3・0)	5 (0・5)	5 (5・2)

※文部科学省調査「児童生徒の自殺の状況」は、平成18(2006)年度から、いじめ調査と同様、国・私立学校も調査の対象。原因は複数回答になった。一方、それまで「教師のしっ責」とされていた項目が「教師との関係での悩み」に変更。

※警察庁自殺調査で、平成19(2007)年度から自殺統計原票を改正。「教師のしっ責」が「教師との人間関係」として復活。遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を3つまで計上できるようになった。

2. いじめアンケートにみる教師との関係

アンケートの出典:「教育アンケート調査年鑑」2007年版 上 株式会社 創育社

◆熊本県いじめ緊急アンケート

熊本県教育委員会 義務教育課・高校教育課 平成19年2月発表

(実施は平成18年11月中旬～11月末、追加調査 平成19年1月中旬～1月末)

	小学校	中学校	県立学校等	全体
今年になっていじめられたことが「ある」 「だれからいじめられたか？」(複数回答)	21,811人 (全体の20.4%)	7,060人 (同12.9%)	1,811人 (同4.6%)	30,682人 (同15.2%)
ア.同級生	77.5%	82.0%	67.3%	78.0%
イ.上級生	25.5%	13.5%	12.0%	22.0%
ウ.部活動を一緒にしている児童生徒	8.4%	20.1%	12.8%	11.3%
エ.先生	0.6%	3.1%	8.3%	2.0%
オ.地域の青年	2.5%	0.7%	0.8%	2.0%
カ.他の学校の児童生徒	6.1%	1.9%	2.8%	4.9%

社団法人 全国高等学校PTA連合会 「平成18年度 子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実」

(平成18年9月11日～9月22日実施 全国9地区の高等学校第2学年生徒 6406人回答)

◆「精神的いじめ」が「よくあった」+「たまにあった」複数回答

誰から	回答者(高2)	男	女	計
1. 同級生		87.3%	88.3%	87.8%
2. 先生		19.6%	24.8%	22.2%
3. 上級生		19.6%	16.6%	18.1%
4. 保護者		14.2%	23.7%	19.0%

※「精神的いじめ」とは、しつこいからかいや無視など、本人が不愉快になるようなこと

番号	年月日	教師の体罰やしっ責によると思われる自殺(未遂を含む)	有形暴力
01	1963/2/13 (630213)	大阪府大阪市城東区の区立すみれ小学校の教室で授業中、男子児童Aくん(小6・12)が教室の窓から飛び降り自殺。 理科の時間に約2割の生徒が宿題を忘れ、女性教師(37)が、「Aくんは前の日も忘れちゃったね。そんなに忘れるのなら一度、お家の人に学校に来てもらいます」と叱ったところ、真っ赤な顔をして頭をかかえ、すぐ横の窓から飛び降りた。	なし
02	1963/9/26 (630926)	福岡県田川市の県立田川東高校の男子生徒Aくん(高3・17)が、担任教師(25)からの体罰の翌朝、自宅倉庫で首吊り自殺。「先生の仕打ちをうらむ。死んでも忘れない」との手紙を6通、友人に出していた。 自殺の前日、男子生徒は他のクラスメイト2人とともに授業中私語をしていて立たされたあと、職員室で人文地理の成績が悪いことをあわせて叱られた。それを見ていた担任教師が理由をただし、次の授業のため教室に戻ろうとするAくんだけを残して、他の非行事実の告白を求めたり、反抗的な態度に対し、「そんなことなら学校を辞めてしまえ」と叱責。他の教師も加わった。昼食抜きで、授業に出させず、反省を求めた。他の教師から喫煙やカンニング等も聞かされ、Aくんの頭を平手で数回殴打。明日、父親を出頭させるように言って、教室に帰した。 1審～高裁で、「教師が生徒に対して懲戒権を行使する場合には、それによって予期すべき教育的効果と生徒の蒙るべき権利侵害の程度とを較量し教育上必要とされる教育の限界を逸脱することのないよう留意するべきである」「被害生徒と担任教諭との信頼関係が既に破壊されていたこと、本件非行の程度、被害生徒は既に担当教諭に適切な訓戒を受けて十分納得服従したばかりであったこと、懲戒の態様等を考慮して、本件懲戒は期待しえない不適切なものであるにとどまらず、生徒の権利侵害の程度もはなはだしいとして、懲戒の範囲を著しく逸脱した違法なもの」とした。ただし、自殺との因果関係を認めず、懲戒行為の慰謝料だけを認める。 福岡地裁飯塚支部判決 昭和45年8月12日(判例時報613号30頁) 福岡高裁判決 昭和50年5月1日(判例タイムス328号627頁)	あり
03	1976/12/7 (761207)	福島県田村郡三春町組合立要田中学校の知的障がいのある男子生徒Aくん(中3・14)が遺書に「学校がこわい」と19回も繰り返して、自宅近くの葉タバコ乾燥小屋の中で首吊り自殺。 学校で、公金と教師の貯金通帳と印鑑などが盗まれ、教師4人がAくんにも暴行を加えるなどして詰問。「白状するまで毎日、調べるぞ」と言われ、Aくんは犯行を認めた。その後、犯人が見つかったが、Aくんは再び共犯を疑われ、「犯人の名前を書け」と責められていた。 校長は引責辞職、教頭と教諭1人が戒告、他の3人の教師は文書戒告処分を受けた。 Aくんは家族に殺害されたとの噂がたつ。(警察は「鑑定の結果、自殺に疑いはない」とする。) 1992/11/ 福島市在住の映画監督が、同事件を題材に映画「ザザンボ」を製作。「家族による他殺」を示唆する内容になっていた。また、土葬の墓を掘り返していたことも判明。	あり
04	1978/2/末 (780200) 未遂	東京都の中福小学校で、いたずらで近所の窓ガラスをパチンコ玉で割った男子児童(小6)が、教師3人から厳しく詰問された直後、校舎3階の窓から飛び降り、全治約8か月の重傷。 民事裁判で、男子児童側は「教師ら3人が教室前の廊下でKくんを取り囲み、45分間にわたって、Kくんに不利益な供述を強要した。特にT教師は、初めからKくんひとりで故意にこの事件を起こしたと決めつけ、Kくんに弁解の機会を与えず、「ほんとうならここでぶっとばされても仕方ないんだぞ」「指紋をとれば犯人はすぐ分かるんだぞ」「おまえがしゃべらなければ、学校の体育館のガラスが割られた事件もお前のせいにするぞ」などと言った。さらにT教師は、Kくんのほうに体を寄せ、「お前がやったんだろ」と言いながら、Kくんの胸や腹を手拳で2、3回、後ろに倒れそうになるくらい強く突いた。」と主張。学校側は「情聴取の時間はせいぜい15分くらい。教師が「手を前に出した際、一度、手が原告(Kくん)の腹部に触れた程度。」と主張。 1982/2/16 東京地裁は教師側の言い分を認め、棄却。	あり

05	1978/10/31 (781031)	東京都府中市の市立住吉小学校の教室で、女子児童(小4・9)が首吊り自殺。 この日は給食調理員の時限ストで生徒たちは弁当を持参した。3時限目の授業が終わった休憩時間に女子児童が口をもぐもぐさせていたことから、男子児童2人が「弁当を食べたろう」とはやし立てた。女子児童は「食べていない」と言って、黒板消しで男児をたたき、筆箱や鉛筆を投げつけた。これを見た担任教師(28)に「そんな乱暴しちゃだめよ」と注意されていた。	なし
06	1979/2/16 (790216)	北海道苫小牧市の市立小学校の男子児童(小6・12)が、自宅風呂場で首吊り自殺。 この日、学校で休み時間に、友人数人といたずらで火災報知器を鳴らし、教師から「いいか、悪いか、家に帰って考えろ」と叱られていた。	なし
07	1982/7/17 (820717)	長崎県長崎市西彼杵郡外海町の町立神浦中学校の男子生徒(中3・14)が、自宅で自殺。 1時間目の国語の授業中、教師(54)に、前日に出された宿題を「したけれど、できなかった」と申し出た。教師に往復4キロ、徒歩で往復1時間半かかる自宅にとりに行くよう言われて帰った。 午前10時すぎになっても男子生徒が教室に戻らないため、校長や担任、国語の教師らが自宅に行き、祖母と一緒に捜したところ、牛の飼料小屋で首を吊って死んでいるのを発見。 遺体の横に、「しぬ」と鉛筆で走り書きした国語のノートがあった。 教師は宿題を他の生徒も忘れたかどうか確認せず、自ら申し出た男子生徒だけを叱り、ノートを取りに帰らせていた。 1983/ 両親が、「先生の屈辱的なしかり方が自殺を招いた」として、外海町を相手どって1000万円の損害賠償を求めて提訴。 1984/4/25 長崎地裁で、「担当教諭の行為と生徒の自殺との間に常識的に考えられる因果関係はなく、自殺を予見することも不可能だった」として棄却。	なし
08	1984/12/3 (841203)	長野県北安曇郡松川村の村立松川中学校の尾山奈々さん(中3・15)が、自宅裏の物置で制服のまま首吊り自殺。 自殺する前に学校と所属している英語クラブの顧問にあての「抗議文」を書いて教室の机の中に入れていた。 顧問は英語クラブの活動を1年生の基礎からやり直す「授業」のような形でやろうとしていたが、奈々さんは授業と同じ形にしないでほしいと考えていた。顧問はあくまでも方針を変えず、奈々さんは次第に反抗的態度を示すようになっていた。顧問は他の生徒がいる前で、「あの子は前はあんな子じゃなかった。どうしてあんな子になってしまったんだろう。前のように良い子になるまで待つわ」と言っていた。奈々さんは、9月に入ってたびたび、「死」を口にだしていたが、友人たちは冗談だと受け止めていた。	なし
09	1985/2/16 (850216)	神奈川県横浜市金沢区の小学校の杉本治くん(小5・11)が、「S/60・2・16 12・24・36 オークン死去」、「マー先生のバカ」という言葉と級友4人の名前をフェルトペンで残して、団地踊り場から飛び降り自殺。 治くんが「学校を破産させれば、勉強をしなくてもいいし、テストもなくなる」と言ったことを他の児童から聞き、女性担任は治くんを級友の前で約1時間にわたって、「将来、精神病院にいくようになる」などと言って厳しく責めたあと、反省文を書せていた。治くんは、4年生で杉並区から転校してきた。学校や教師に対する不信を何度も作文に書いていた。	なし
10	1985/3/23 (850323)	岐阜県恵那市の岐阜県立中津商業高校の竹内恵美さん(高2・17)が、陸上部顧問教師(46)の暴力的シゴキや体罰を苦に自室で首吊り自殺。 恵美さんは期末テストで赤点をとったことについて、担任と顧問から5時間近く暴力を伴う指導を受け、合宿や練習にも参加させないと言われた。 1993/9/6 岐阜地裁で一部認容。体罰の違法性を認め、岐阜県に計300万円の慰謝料支払い命令。ただし、自殺と体罰の直接因果関係と、教師個人への賠償請求は認めなかった。確定。	あり
11	1989/3/13 (890313)	香川県大野原町で、県立高校の男子生徒(高1)が、自宅近くのビニールハウス内で首吊り自殺。「反省日記」と題をつけたノートがあり、バイクの無免許運転で無期停学を受けたことを「とてつらかった」と書いていた。	なし

12	1989/6/11 (890611)	群馬県赤堀町で、生徒指導の教師に喫煙が知れてしまったことから、男子生徒(中3)が厳しい指導を恐れて自殺。「先生へ」の遺書に、「一番きらいできにいんない みんなもそういつているころしてとかいつているけどかちめないし 先生は口で言えばわかることを どうしてなぐったりするんだろう そんなことをしなくてもいいのに そのことを考えるだけで やだ くそう」と書いて、生徒指導担当教諭が名指しされていた。 夜、友人3人と、生徒指導の教師に喫煙が知れてしまったことを話し合い、男子生徒は「殺されるかもしれない。一緒に死のう」と友だちを誘っていた。	なし
13	1991/11/12 (911112)	福井県吉田郡永平寺町の特殊学級の男子児童(小6)が自宅近くの納屋で首吊り自殺。遺書はなかった。 男子児童は2、3日前、男性教師から「お前なんか死んでしまえ」と言われ、死ぬ前日にも友人から「首を吊ったらどうか」などと言われていた。当日、友人に「死にたい」と漏らしていた。	なし
14	1992/2/22 (920222)	東京都東久留米市の市立中学校から、体罰が原因で別の中学校に転校して2日目に、女子生徒(中2)が自殺。 1991/6/ 前の学校の林間学校で、就寝時間の見回りにきた女性教師から、「注意に対して反抗的な態度をとった」として、Aさんは頬を強く殴られた。 1992/1/ 授業が始まって教室に戻らなかったことから、同教師に「じゃまだから、学校に来るな」と言われ、一緒に注意を受けた別の女子生徒と、頭と頭をぶつけられた。 Aさんは、女性教師のことを慕っていただけに強いショックを受け、その日から1週間、家出。帰宅後も同教師の授業を嫌がったため、親が転校させた。	あり
15	1992/6/24 (920624)	島根県益田市の市立東陽中学校で、岡崎一(はじめ)くん(中3・14)が、自宅近くの雑木林で首吊り自殺。 担任教師らは、下級生が行った万引きを、一くんが強要したのではないかと疑い、校内の放送室などで一対一で3日間にわたって厳しく調べた。 一くんは入学当時から同級生数名から集団暴力、無視、自転車をこわされる、けんかをさせられる、使い走りさせられるなどのいじめを受け、転校を申し出ていた。学校側はいじめをやめさせるよう責任を持って努力するからと説得したが、その後もいじめは陰湿化し、続いていた。 1993/1/11 両親が学校管理者の益田市を相手どって、3000万円の慰謝料を求めて提訴。 1994/12/8 松江地裁益田支部で、原告側は金銭の要求等はすべて放棄し、学校側が「一くんが自殺したことは遺憾である」と表明することで和解。	なし
16	1993/10/13 (931013)	栃木県芳賀郡茂木町の町立茂木中学校の塩沢允孝くん(中3)が、公園の休憩所で首吊り自殺。遺書に、「抗議として死の道を選ぶ。暴力を振るう先生と一緒にいたくない」「担任の先生に殴られた。気の弱い僕はプライドを傷つけられた。こんな先生を許すわけにはいかない。学校もおもしろくない。これ以上犠牲者を出したくない。この先生を許すことがないようにしてもらいたい。そうすれば学校は明るくなる」などと書かれていた。 10/4 体育館で孝くんは、担任の男性教師から生活や学習指導上の問題を理由に、顔面を4発殴られ、左目のうえにあざができていた。同教師は事件までの半年間に、ほかの生徒に対しても、計8回の暴力をふるっていた。学校は1月以上たってから公表。体罰があったことは認めしたが、理由は「生徒のプライバシーにかかわるので明らかにできない」とのみ説明。両親に対しても、「授業態度が悪かったため」としか説明しない。教育委員会に提出した学校事故報告書には、体罰があったことや、抗議の遺書が残されていたことなどは書かれていなかった。	あり
17	1994/9/9 (940909)	兵庫県龍野市立揖西小学校で、担任教師にぶたれた直後、内海平くん(小6・11)が自殺。 同日、平くんが「運動会のポスターの絵、自分で考えたんでもええん」と質問したところ、教師は「3時限目に説明したやろ。何回同じことを言わすねん」と大声で怒鳴り、利き手の左平手で平くんの頭頂部を1回、両頬を往復で1回殴打。教師は一旦、教卓のほうに戻りかけたが、平くんが他の同級生の方を見て照れ笑いを浮かべたのを見て、馬鹿にされたと思ひ立腹し、「けじめつけんかい」と怒鳴りながら、再び、利き手の左平手で頭頂部を1回、両頬を往復で1回殴打。	あり

		死亡事故報告書には「不明」と書いてあり、県教委は平くんの事件を自殺に計上しなかった。 2000/1/31 神戸地裁姫路支部で原告勝訴判決。教諭による体罰や暴行が自殺の原因として行政責任が認められたのは初めて。市側の「ロープで遊んでいて、足場の悪いいすが倒れたことも考えられる」との主張を退け、自殺と認定。	
18	1994/9/20 (940920)	福岡県福岡市の中学校の女子生徒(中3・14)が、学校で担任教師から盗みの指導を受けたあと、帰宅途中に「私が全部悪いんです。もう生きていく資格がないから死にます。」という内容の遺書を残して、高層団地から飛び降り自殺。 女子生徒は入学当時、友人がほとんどできず、「同級生が悪魔に見える」などと家族に話していた。同級生の歓心をかうために、盗みをしてプレゼントを渡していた。 指導目的で始めた交換日記に、女子生徒は「自分で自分の首をしめた」「何度も同じ事をし、信用を失われ。生きる価値もない人間なのだ。」「死ねるものなら死んでしまいたい。」と書いていたが、担任の女性教師(36)は、「この年代の子はしかられた時の気持ちはこういうものかな」と感想を抱いただけで、内容について生徒と話し合うことはなかった。	なし
19	1994/10/24 (941024)	大阪府枚方市の私立女子高校の女子生徒(高1・16)が電車に飛び込み自殺。 クラスで約1週間前に、カバンが紛失する騒ぎがあり、一部の同級生からこの生徒が盗ったのではないかと声があがった。担任教師が母親を呼んで事情を話し、母親が本人に聞いたのだが、女子生徒は担任に「私ではない」と答えていた。	なし
20	1994/11/13 (941113)	大阪府羽曳野市立河原城中学校で、ソフトボール部の副キャプテンの青木亜也子さん(中2・13)が、顧問の男性教師(35)らから叱責された翌朝、自室でユニホーム姿で自殺。「おかあさん、ごめんな クラブもうつつけられへんねん」という遺書を残していた。 亜也子さんは、練習試合で送球ミスなどが重なり、「同じミスばかりするな」と怒られ、途中で交替された。試合後、顧問の男性教師と他の2年生たちとともに、「明日の公式試合に来なくてええ。背番号も返せ。(試合に)出せへんからな」と言われた。 その後、学校側が「部活動の指導の行き過ぎが原因だった」と認める。	なし
21	1995/8/4 (950804)	長崎県長崎市で、県立高校の男子生徒(高3・18)が飛び降り自殺。両親あてに「何も悪いことはしていないのに、教師から怒鳴られ、目の前が真っ暗になった」「40分間怒鳴られた」「(ほかの生徒の前で)とんでもないやつだと言われた」と教師3人を非難する遺書を郵送していた。 夏休みの補習中、机やいすを運ぶ作業をした際、女性教師が運び終えた同生徒に女子生徒を手伝うよう声をかけたが、男子生徒は素通りした。担任教師が聞いたところ、男子生徒は「聞こえなかった」と返答。学年主任も職員室で注意をした。 翌朝、男子生徒は、「疲れた」と補習授業に行きたがらなかったが、担任教師から登校するようにと電話が入り、家族がタクシーで送り出した。 男子生徒は最近、耳の調子が悪く、病院で軽い難聴と診断されていた。校長は「難聴とはだれも知らなかった」と話し、県教委や学校は「行きすぎた指導はなかった」とした。	なし
22	1998/3/1 (980301)	群馬県の中学校で男子生徒(中2・14)が自殺。「もう生きていく自信がない。みんなに迷惑をかけてマジごめん」「ゴメン、オレのせいでみんなヤベーことになっちまって……オレが死ぬ理由は、みんなに悪いから」などと書かれた遺書を残していた。 2/21 同生徒は校内で、友人ら8人でタバコを吸い、学校から反省文の提出を求められていた。教師に友人の名前を告げたことで責任を感じていたという。	なし
23	1999/11/27 (991127)	北海道名寄市の道立名寄農業高校の寄宿先の学校寮洗濯室で、酪農科の男子生徒(高2・17)が、体罰を受けた数時間後の夜中に首吊り自殺。 11/26 夜、同校敷地内の寮で、男性教師(33)と男子生徒2人で、研究発表に向けた原稿を準備していた。午後9時過ぎ頃、生徒がテレビに気を取られていたことに腹を立てて、教師が足を蹴ったり、頭を叩いたりするなどの体罰を加えた。生徒にけがはなかった。	あり
24	1999/12/4 (991204)	長崎県長崎市の私立海星高校の男子生徒(高2・18)がマンション屋上から飛び降り自殺。 生徒は期末試験の1時限目テストでカンニングをしているのを教師に見つかり、「トイレに行き	なし

		たい」と言って教室を出た。マンション屋上にいるのを通報で駆けつけた警察署員が約10分間説得したが、制止を振り切って飛び降りた。	
25	2000/1/16 (000116)	長崎県五島の富江町の中学校の男子生徒(中1・13)が、町内の倉庫で首吊り自殺。 1/15 男子生徒は担任教師から服装などを注意され「なんで俺だけ注意されるんだ」などと反発。教諭ともみ合いになり、警察が駆けつけるなどの騒ぎになった。同日夜には、生徒は校長と担任教師に謝罪の電話をかけていたという。	なし
26	2000/9/30 (000930)	埼玉県新座市立第二中学校の大貫陵平くん(中2)が、マンションから飛び降り自殺。「たくさんバカなことをして もうたえきれません」「自爆だよ」などと書いた遺書を残していた。 前日、教師がお菓子の臭いに気づき、生徒たちに問いただしたところ、他クラスの生徒を含めて6人の名前が上がった。陵平くんはお菓子をもらって食べたことを自己申告していた。 会議室で12人の教師が、9人の生徒らから、お菓子を食べたかどうか、他にも食べた者はいないかなど、一人ひとりに確認し、その場にいない生徒の名前も何人かあがった。また、ライターを学校に持ち込んで遊んでいた生徒がいたことも判明。 翌日の夜、教師から自宅に電話があり、来週の学年集会の場で、リーダー格の生徒には、みんなの前で決意表明をしてもらうことや学校にライターを持ってきた生徒すべての保護者に学校に来てもらうことなどを話した。約1時間後に自殺。	なし
27	2002/3/23 (020323)	兵庫県伊丹市の県立伊丹高校で、西尾健司くん(高1・16)が自宅近く建物から飛び降り自殺。 3ヶ月前、学期の期末テスト時、隣の席の友人に頼まれて答案を見せた。カンニングと認定されて、友人と一緒に1週間の自宅謹慎処分(健司くんにとって初めての処分)を受け、反省文、反省日記を書くように指導される。12/13 から書き始めた日記を、終業式の前日に突然、春休みも続けるように言われる。終業式のあと、校内のトイレでタバコを吸っているところを教師に見つかり、母親も学校に呼び出された。校長からは「ストレスがたまったとは何や」、学年主任からも「家族も先生も裏切って」と叱責。生徒指導部長と担任にも叱られ、無期の自宅謹慎を通告された。家族で行く予定だったスキー旅行も禁止された。	なし
28	2002/3/25 (020325)	群馬県高崎市の東京農業大学第二高等学校(東京農大二高)ラグビー一部員金沢昌輝くん(高2・17)が、合宿当日に自殺。 ラグビー一部の練習は長時間で、休みは年間10日程度だった監督からは激しく叱責された。 ラグビー一部の1年生時には、部員の上下関係により、一部暴力もあった。 昌輝くんは1年生の9月に過呼吸の発作を起こし、その後も何度かラグビー絡みで発作を起こしていた。かなり激しい発作後も、練習に参加させられ、家族に過呼吸の発作を起こしたことを知らせなかった。当日も発作を起こし、合宿の欠席を申し出たが、治ったら参加するよう言われる。すでに連絡があったことを知らないS監督が、マネージャーに昌輝くんの自宅へ連絡を入れさせた。昌輝くんは「これは策略だ」「あいつら人間じゃあないから」などと言った。 死後、夏合宿頃から、指導陣の昌輝くんに対するプレッシャーがきつくなっていったことや他の選手のミスや昌輝くんのせいだとして怒ったり、「お前バックスとして駄目だよ」「使えねえ」などの言葉を浴びせたりしたことが判明。(特定の部員に注意が集中することを部員たちは、「ハメ」と呼んでいた) 2005/9/1 前橋地裁で、グラウンドに生徒の名前などを刻んだ石碑をつくること、ラグビー指導に当たり、部員に体罰や差別的な取り扱いをしないこと、部員の健康や安全管理の徹底、スポーツ推薦で入学した生徒が部を辞めても退学しないこと、認める、などの内容で、和解。	なし
29	2004/3/10 (040310)	長崎県長崎市の市立小島中学校で、安達雄大くん(中2・14)が、ライターとたばこをもっていたことを担任教師に見つかり、指導途中、トイレに行くと言って、校舎4階の手洗い場の窓から飛び降り自殺。指導されていた部屋の机から、「オレにかかわるいろんな人 いままでありがとうほんとにありがとう ○○(友だちの名前)とりょうしん、他のともだちもゴメン」と書かれたノートが出てきた。雄大くんは、所属する部活が活動停止になるのを気にしていた。 同校では、アンケートによる違反の告白や、他の生徒の違反を密告させる生徒管理・指導を行	なし

		<p>っていた。担任教師は月に2、3回程度の体罰を行っていた。</p> <p>2008/6/30、長崎地裁で、「喫煙指導は不適切な面が認められるが、法律上の義務としての配慮義務又は防止義務に違反したとまでは言えない」ことや自殺の予見可能性を否定して棄却。</p> <p>一方、教師の指導と自殺との因果関係を認定。</p> <p>後に、市教育委員会は県教育委員会に「転落死亡事故」と報告していたが、両親に伝えないまま、「自殺」に変更する統計修正を県教委に出していたことが発覚。</p>	
30	2004/5/26 (040526)	<p>埼玉県所沢市の県立所沢高校の井田将紀くん(高3・17)が、中間試験でカンニングを疑われ、母親の携帯電話に「迷惑をかけてごめん」とメールを送り、飛び降り自殺。将紀くんは約2時間にわたって、教師5人に尋問されていた。その間、昼食や飲み物も与えられず、トイレ休憩もなかった。</p> <p>2008/7/30 さいたま地裁で棄却判決。 2009/7/30 東京高裁で棄却判決。</p>	なし
31	2005/10/4 (051004)	<p>長崎県対馬市の県立高校の男子生徒(高1・15)が道路横のガードパイプにロープをかけ首吊り自殺。友人関係の悩みなどを記したノートが生徒の部屋にあった。</p> <p>男子生徒は9月下旬から携帯電話のチェーンメールをめぐり、複数の生徒とトラブルになり、担任教師らが同日、男子生徒を指導。男子生徒は反省文を書いていた。</p> <p>担任らは母親を呼んで説明し、午後8時頃、母子で帰宅した。その後、担任が教室の黒板に「今までサンキュー」という言葉と生徒のイニシャルが書かれているのを見つけ、9時頃、電話で母親に生徒の様子に気をつけるよう、注意していた。</p>	なし
32	2006/3/16 (060316)	<p>福岡県北九州市若松区の市立小学校の永井匠(たくみ)くん(小5・11)が帰宅直後に自宅で首吊り自殺。</p> <p>掃除中に、男子児童の振り回した新聞紙をまるめた棒が同級生の女子児童の顔に当たったため、担任の女性教師が「謝りなさい」と怒鳴った。しかし、匠くんが「謝った」などと反抗的な態度をとったため、上着の襟をつかんで持ち上げ、床に押し倒し、左腕をねじり上げるなどした。匠くんは泣きながらペットボトルを床に投げつけて、教室を出て行ったが担任は追いかけて、保護者にも連絡をしなかった。</p> <p>匠くんは前年秋から担任教師と折り合いが悪く、集中的に体罰を受けていた。「学校をやめたい」と泣きながら帰宅したこともあった。</p> <p>2009/10/1 福岡地裁小倉支部で、教師の体罰と自殺の因果関係を認め、市に約880万円の賠償を命じる。遺族は「学校災害として申請をしたのに、センター側は北九州市からの報告を元に死亡見舞金を支給しなかった」として提訴していたが、独立行政法人日本スポーツ振興センターに満額の2800万円の支給命令。</p> <p>2010/5/21 福岡高裁で、市が責任を認めることで和解。市は教諭の行為を「総合的に見れば適切さを欠いており、自殺を防止できなかった」としたものの、体罰とは認めなかった。</p>	あり
33	2006/11/1 (061101)	<p>兵庫県尼崎市の市立中学校の男子生徒(中3・14)が、マンションから飛び降り自殺。</p> <p>10/31 午前、男子生徒は担任教師から呼び出され、友人関係などについて指導を受けていた。生徒指導の担当教師や母親も加わって、2、3時間話し合ったあと、教師らの指示で、授業を受けずに帰宅した。</p> <p>11/1 同級生らによると、この日も元気がなく、午前の授業中に「遺書でも書こうかな」などと話していたという。</p>	なし
34	2007/2/1 (070201)	<p>千葉県松戸市の市立中学校の男子生徒(中2・14)が、マンションから飛び降り自殺。</p> <p>男子生徒は2年生の1学期頃から部活内で「疎外感を感じる」と顧問に訴えていた。</p> <p>1/31 同学年の他の生徒7人とともに、1人の生徒を殴ったり、足をかけたりして肩の骨を折るけがを負わせた。8人は学校の指導を受け、被害生徒に謝罪していた。男子生徒が自殺したマンションは被害生徒の住んでいるマンションだった。</p>	なし
35	2007/2/26 (070226)	<p>大阪府豊中市の私立大商学園高校の体育館内3階の放送室内で、岸祐太郎くん(高1・16)が柔道着の帯で首吊り自殺。</p>	なし

		<p>祐太朗くんは前日、教室で自分の首を柔道着の帯で絞めて同級生に制止され、担任教師から「そんなことしたらあかん」などと声をかけられていたが、遺体発見の午後にはじめて校長らに伝えられた。</p> <p>祐太朗くんは学校の指導方針に不満をもらしていたほか、校内トイレであった不審火に絡んで犯人と疑われて疲れていたようだったと家族は話す。学校側は「調査はしたが、放火を疑った事実はない」と否定。</p>	
36	2008/7/14 (080714) 未遂	<p>北海道富良野市の道立高校で、校舎4階教室窓から女子生徒(高1)が飛び降り、手足の骨を折る重傷。</p> <p>生活指導担当教師が午前11時ごろから、友人同士でのメールのやりとりについて女子生徒から話を聴いていた後、女子生徒は保健室で休養を取って教室へ戻り、昼休み中に飛び降りたという。</p>	なし
37	2008/7/20 (080720)	<p>北海道の道立稚内商工高校の今野匠くん(高2・16)が、携帯電話の掲示板にほかの生徒の中傷を書き込んだとして、計6人の教師らから約3時間にわたって事情を聞かれ、停学処分との連絡を受けた後、自殺を図る。8/4 死亡。</p> <p>匠くんはノートに、「償いについて自分は死ぬべきだと思う」「自分は殺す。死ぬ。と軽々しく書いたので(中略)ケジメをつけるために死のうと思う」「おれって先生たちにも信用なかったんだね」「お前の罪は重いと。死ぬと。他の先生からは、お前はバカか？と言われました」「罪が重すぎて自分には耐えられない」「僕に停学は重すぎる」などと書いていた。</p> <p>学校は「本校の職員がそんなことを言うはずがない。事実と違うことを書いている。指導は適切だった。事情聴取が本人を追い詰めたとは考えられない」と記者会見で話した。</p> <p>2011/ 両親が、長時間にわたる教諭の指導が自殺の原因として、道に約8700万円の損害賠償を求めて提訴。</p>	なし
38	2009/1/19 (090119)	<p>福岡県福岡市の市立内浜中学校の男子生徒(中1・13)が、登校中に自宅近くのマンションから飛び降り自殺。</p> <p>男子生徒は、昨年6月に担任教師から、同級生をいじめているとして、ひざを4回けられ、げんこつで頭を1回たたかれた。</p> <p>1/16には、2回忘れ物をしたとして、クラスで担任教師に頭をげんこつでたたかれていた。</p>	あり
39	2009/7/15 (090715) 未遂	<p>佐賀県小城市の市立中学校で、「女子トイレに落書きがあった」として、担任教師に事情を聞かれた女子生徒(中1)が、校舎2階から飛び降り、前歯を折るけがをする。</p> <p>前日、女子トイレに落書きが発見されたことから、教師が落書きをしたものは名乗り出るよう呼びかけたが、反応がなかった。アンケートを実施したところ、女子生徒を含む複数の名前があがった。担任教師が2階の学習室で一对一で事情を聞き、数分席をはずしたところ、部屋の真下に倒れているのが発見された。</p>	あり
40	2009/8/21 (090821) 未遂	<p>京都府亀岡市の市立南桑(なんそう)中学校で、男子生徒(中1)が、校内1階のカウンセリングルームで、生徒指導の男性教師(31)から30分にわたり一对一の生徒指導を受けていたが、教室を抜け出し、野外の3階渡り廊下から飛び降り、意識不明の重体。</p>	なし
41	2011/6/9 (110609)	<p>愛知県の県立刈谷工業高校の山田恭平くん(高2・16)が野球部顧問から呼び出された2日後に練炭自殺。</p> <p>5/末 恭平くんは、部室で禁止されているトランプをしていた部員らが、顧問教師から殴る蹴るの暴力を受けるのを見て強いショックを受け、野球部の練習を休むようになっていた。</p> <p>6/7 顧問から主将を通じて呼び出された。翌日、恭平くんは学校を休み、その後、行方不明になった。</p> <p>学校が作成した事故報告書には、間違いや、家庭の事情などに明らかな嘘が書かれていた。</p>	なし